

## — 巻頭言 —

## 新学習指導要領と教育課程の編成について

県教育庁教育振興部指導課 指導主事 風戸 正

平成 21 年 3 月に高等学校及び特別支援学校の新学習指導要領が告示され、これによりすべての学校種における新しい学習指導要領がそろいました。今回は、教育基本法及び学校教育法の改正のもと、中央教育審議会からの答申を踏まえて改訂が行われました。今回の改訂の基本的な考え方は、以下の 3 点です。

- 教育基本法や学校教育法等の改正で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成すること。
- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。
- 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

すでに、小・中学校では新しい学習指導要領による取組が昨年度から展開され、今年度から高等学校でも総則、総合的な学習の時間、特別活動等について先行実施されています。

県教育委員会では、各学校での教育課程の円滑な実施のために、今後とも新学習指導要領の趣旨・内容について、様々な機会を通して周知・徹底を図っていきます。また、新高等学校学習指導要領及び解説をもとに、各学校が教育課程を編成するための指針として、本年 3 月に「千葉県県立高等学校の教育課程の編成方針」を通知しました。この通知は、本県高等学校教育の実態を考慮し、さらなる充実発展を目指すため、この先 10 年の教育を担っていきたいへん重要な方針となっています。そのためにも、今改訂の趣旨をしっかり受けとめるとともに、本県の「学校教育指導の指針」で大きく謳っている「言語活動と体験活動の充実」を取り入れているのが特徴です。

ややもすると私たちは、カリキュラムの編成にばかり目が向いてしまいがちです。是非とも、「どのような学校づくりをするのか」、「どのような力を生徒に育成するのか」という学校としての方向性について、大いに議論を交わし共有をしていただきたいと思います。

今改訂では教科・科目において、共通性と多様性というキーワードが示されています。すべての高校生が学ぶべき共通必修科目を設置したことや、これまで以上に生徒の興味・関心や進路等の多様なニーズを踏まえることも重要な点です。特に数学においては、「数学 I」のみが共通必修科目となり、これまでの内容に加え、中学校との接続に配慮して「データの分析」が盛り込まれ、数学的活動を充実するための「課題学習」も位置付けられました。各学校では、数学の科目構成及び内容についての系統性、生徒の選択の多様性に配慮するとともに、他教科等での学習内容も考慮して、生徒のより深い理解を促進するような教育課程の編成が求められています。

今後とも、各学校においてはこの学習指導要領の改訂期を新たなスタートとして、日々の授業を見直すとともに、生徒の主体的な取組を活かす授業づくりに向けてさらなる取組をお願いします。

終わりに、数学会の事務局及び会員の皆様方の献身的な取組に感謝するとともに、この数学会誌『 $\alpha-\omega$ 』が先生方の研修の一助としてさらに充実し、ますます活用されることを祈念いたしております。